

寺
ごよみ

四 月

一 日 下村お講

黒西組本山助成会

七 日 若婦人会花の会

八 日 お釈迦さま誕生日

一〇日 世界仏教婦人大会

一二日 太子会とお花見

夢を育てる会総会

一六日 栗虫お講

一七日 偲ぶ会お経会

花の誕生会

二五日 チューリップ摘み

二六日 花の誕生会

親鸞さま、おじい

ちゃんからお孫さ

んまでみんなの誕

生を祝う法会です。

赤ちゃんの初参式受付中

受式料は三千円

寺 報

善 巧

発 行

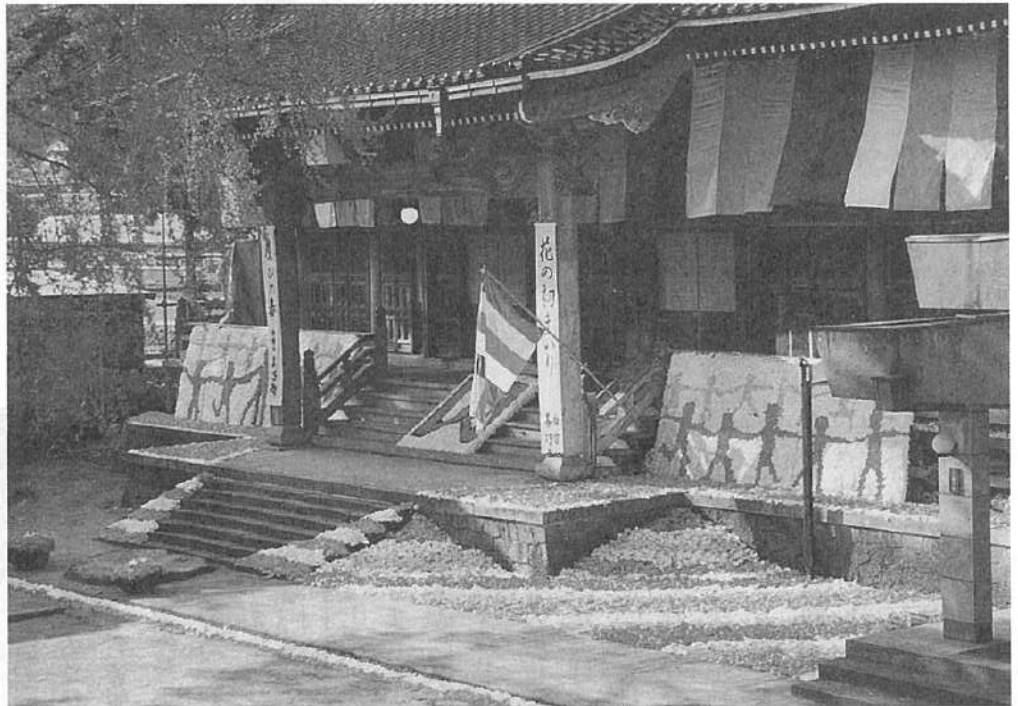
〒938-0862 富 山 県
下新川郡宇奈月町浦山497
白 雪 山 善 巧 寺
T E L (0765) 65-0055
F A X (0765) 65-0975

第22回

四月二十六日午前十時

慶びの春 花の誕生会

初参式、チューリップ、
縁日



チューリップの花いっぱい善巧寺

私は、雪山隆弘さんのお父上、利井興弘さんのイトコに当る。興弘さんはイトコ

の男仲間、最年少で、私は最年少で、その差十五歳。

昭和十八年三月のこと。

興弘さんのお父上興隆さん（ヨスミのオッチャン！）から電話がかかった。

三人の息子が、皆招集で外地へ出てしまい、寺が

淋しかったんで、お前が用心棒にウチから龍大へ通うてくれんか……

早速父親に相談した

ら、ウンもスンもない、

行け!!の一言、行李担

いで常見寺へ出向き、

両手ついて、

「ご厄介に相成ります」

ヒゲピンのオッチャンの

笑顔が今も忘れられん。

広い境内に、老住職夫妻、

若坊守と男児二名、そのチ

ッコが隆弘少年で三歳、

まるでまるこめ味噌小僧!?

そのとき、申さるるに、

「お前専用の洗面器を用

意したアるんで、明日から

それで顔を洗えよ!」

洗面器の底に…

居候君、第一目の朝、ピカピカの洗面器と対面。その底に一枝の桜が画かれてあって、それに一句、散る桜、残る桜も、

散る桜

とあった。この古句との出合いはこんな風だった。

折しも、国家総動員の真只中で、お国のために、この桜花の如く潔く散れと。

切ない思いで、一年

間このお世話になり、

私も海軍予備学生で鹿

島立ち旅順へ。

あれから時は流れ、

歳は移って四十余年、

元氣そのものだった隆

弘君が体調をくずした

頃、一冊の近著を送って

くれた。早速、表紙を繰った

ところに、見覚えのある例

の洗面器の一枝の花と古歌

が描かれてあった。

半世紀五十年…、私の意識下で眠り続けていたマダマが、突如、天空目指して

噴き上げるのを見た。

大阪蓮光寺 住職

森 正 隆師



正忌ご法話

天岸浄圓先生

一月十五日昼席

去年の十二月一日の御文、同二十日あまりに、たしかにみ候ひぬ。なによりも、殿の御往生、なかなかはじめて申すにおよばず候ふ

(恵信尼消息、第一通)

今年の御開山様の御正忌の法縁にお招きを頂きまして、大阪の行信教校に寄せていただいております天岸でございます。実はこちらの善巧寺様には二度目に当たるご縁でございますが、皆様とご一緒にご法義のお話をいたしますのは、これが初めてのご縁でございます。初めてこうしてご縁をいただくと同じようなことでございますので、なにせ、

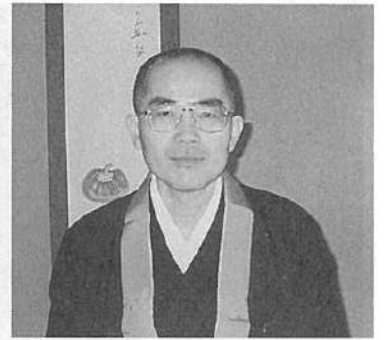
大阪で生まれ育った身でございますので、言葉の使い方も違いますし、皆様の日々のお聴聞のあり方もいささか違うかもしれません。所々でおたずねしながらお話を申したいと思っておりますので、おたずね申しましたら、少し意志表示をしながら、私にお話させていただきやすいように協力をお願いしたいと思うのでございます。でないと、お話が皆さんに通じておるのやら通じておらんのやらわかりませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

先ほど御讀題に拝読を致しましたお言葉は、親鸞聖人の奥様でいらつしやいま

した恵信尼様が、聖人がご往生になられた、というお嬢様の覚信尼様からのお手紙に対して、聖人の思い出を書き送られたお手紙でございます。その中の一通の始めの所だけ読ませていただきました。皆様もご存じのことだろうと思っておりますけれども、親鸞聖人のご往生は、昔の年号で申しますと弘長二年(一二六二)の十一月の二十八日であつたと伝えられております。昔の暦でのご命日は十一月の二十八日でありました。ところが明治になりました、今私たちが使います曆にかわつた時に、その旧暦の十一月二十八日を、今の曆に繰り改めますと、年があけての一月十六日になつたわけでございます。それで、今一月の十六日にご法事が勤まります。そういう事情があつたわけで、西本願寺では一月の九日から十六日のお日中までがいわゆる御正忌になるわけでございます。ところが昔の曆は今と違いま

すので、今の曆では一月を新春ともうして、お年賀お書きになる時に、新春とか迎春とか書きなさるでしょ。あれは一月が年の初めであり、春から一年が始まつたので新春とか迎春とか言つたのです。……でもなになが迎春よな、今日らさぶてさぶて。(笑) 昔の曆では、一・二・三月が春にあたりました。ですから四・五・六月が夏で、七・八・九月が秋で、十・十一・十二月は冬になります。ですから十一月の二十八日もうしますと、まさに寒の最中になります。だからちやうど今のような時期でございます。親鸞聖人のお歳が九十歳の十一月の二十日頃、冬の最中でございました、聖人のお体に、ただならぬご容態が出てまいります。今日でも男性の九十歳という年齢はたいへん珍しいことでございますが、今から七百五十年近く昔に九十歳というのは、そうおられませんかでしょう。ようまあ、

あんだけ生きなさつた。しかし、さしも強健なお体もこの年の冬の冷たさがさつたのでありましようか、十一月の二十日頃からいよいよご容態が変わり、そして一週間あまりでご臨終をむかえられました。十一月二十八日のお昼過ぎ頃にご往生になりました。この親鸞様のご臨終を主になつてお世話なさいましたお方が、聖人と恵信尼様との間に生まれになった、一番末っ子であり末娘でいらつしやつた覚信尼様でございます。このお方が親鸞聖人の晩年のお世話を主になつてなさつたようでございます。覚信尼とは、もちろん法名でございます。このお方は、親鸞聖人が五十二歳の時に生まれになったお嬢様であることがわかつています。だからだいぶお歳を召してからの子供さんということですから、五十二歳の時のお嬢様でございますから、親鸞聖人は九十歳でお亡くなりでございますから、お嬢様



は聖人が亡くなった時は三十八歳です。この方は一度ご親戚の日野家へお嫁入りをなさいますと、お嬢さんと坊ちゃんがおできになるんですけれども、ご主人が先に亡くなってしまわれまして、お二人のお子さんをお連れになって、親鸞聖人のもとへ身を寄せていらっしやう。その間に聖人がご往生になられたわけなんです。考えてみますと、聖人が五十二歳のときに、ご誕生の子供さんですから、物心がついた頃にはお父様は、もうおじいさんというお歳です。今でしたら六十歳でお歳を召した言うたら叱られるでしょう。でも私らが小さい頃に六十歳というたら、

えらい歳よった人やなと思うたわけですよ。また昔の人は六十、七十歳というたら歳よってらっしゃったものです。ですから、その時分におできになったお嬢様ですから、お父様のことをお歳めしたおじいさんみないに思われたのではないのでしょうか？そして若い頃の聖人、お父さんというものをどのように聞いてらっしゃったかわかりません。話は後先しましたけれども、親鸞聖人を、そういう事情のあるお嬢様がお世話をされていたのです。そしてお葬儀のお世話も主になってされたことでしょう。二十八日がお臨終ですから二十九日がお葬式でしょうね。そして一晩あけてお骨上げでしょう、だから二十八、二十九、三十日で十一月が終わりまして、明けて十二月一日です。これが師走一日ですよ。その師走一日に、越後にその時分にはお帰りになってらっしゃったお母様である恵信尼様に

お父様の親鸞聖人がお亡くなりになられたということを手紙でお知らせになったわけでしょう。それが先ほどのお手紙の書き始めに「去年の十二月一日の御文……」の文章がその事情を表しているわけですね。「コゾの」というのは、あなたが去年の十二月一日付けでよこしてくれたお手紙を「同二十日あまりに、たしかにみ候ひぬ」同じ十二月二十日過ぎに確かに拝見しました。「なによりも、殿の御往生なかなはじめて申すにおよばず候ふ……」これで恵信尼様は親鸞聖人のことを「殿」と呼んでいたことがわかります。「殿の御往生……」というのには親鸞聖人がご往生なさったことを確かに聞かせてもらいました。以前からお体の調子が悪いということ、これは何度もお手紙がいつておったことでしょう。そして今度はどうも常ならぬご容態であるということも、先に伝わっておつ

たようであります。ですから越後から坊ちゃんが京都へお見舞いに上つてらっしゃいます。そしてご臨終にもあつてらっしゃいます。後にそういうことが書かれておりますのでね。すでに前もつてお父様のお体がただならぬことはお知らせがあつたようです。しかし亡くなったことを聞きまして「なかなかはじめて申すにおよばず候ふ」と書いてありますけど、どういう意味かともうしますと、「お加減の悪いことは既に聞いておりましたけれども、ご往生なされたという知らせに接して改めて言葉を失っております、感無量のものがございます」という書き出しの言葉だったのです。そして親鸞聖人のお若い頃のこと、またご自分との間の思い出を娘さんに綴っていかれるわけなんです。そういうお手紙が幸いにも西本願寺のお蔵にずうっと眠っておりました。大正十年の頃によく発見され

まして、こうして今私達がこのお手紙に接することができるようになりました。その中に、親鸞聖人が二十九歳の時に比叡の山をお下りになって、法然聖人にお会いになられたいきさつが細やかに書かれてございます。その部分を、御讀題に拝読したわけなんです。あまり聖人の内々のことばかり申ししてもなんですので、少しこれから親鸞聖人と法然聖人のお出会いになられたいきさつをおしなながら、お念仏のお話を申し上げていきたいと思うのです。

(つづく)



ご正忌報恩講とき

1 / 13 ~ 1 / 16

「もうすでにみなさんもお話をお聞きでいらつしやることかと思うんでござい

ますが、こうしてご正忌のご法要にはご絵伝が掛けられます。ご正忌の晩には、このご絵伝と一つになっておりましたご伝鈔が拝読されていきます。大変格調の



高いご文章でございしますのでなかなか理解はしにくうございます。そういう大へん格調の高いご文章で、親鸞聖人がお生まれになられ九つで仏門に入られたいきさつから、ご往生になられて、今日で申します大谷のご廟が完成していきますまでのご縁起、さまざまご生涯とか事情を、いまこうして四幅のお軸にしかも縦の軸にしてございます。もともとはこうではなく、一番最初の頃は横へ長いいわゆる絵巻物でございました。ですから言葉とその言葉を表す、今でいうと小説の挿絵ありましょ。言葉と絵と、言葉と絵、というふうに、親鸞聖人のご生涯を繰っていったわけでございます。これが実は親鸞聖人の三十三回忌のご法要の記念として考案されたものだったんです。...

厳寒の本堂のお内陣で、天岸先生もかじかむ手をさすつての絵解きでしたが大変味わい深いお初夜でした。

ご正忌報恩講も無事に終ってねざらい合うお世話方



門徒会館でカラオケ大会

3/1

一人でも多くの門徒さんに会館を使ってもらおうという主旨で企画されたカラオケ大会。板屋の嶋田総代

の提案に賛同した浦山、板屋の総代方が発起人となつて、三月一日（日曜日）、板沢のお講が終った一時半、



歌唱賞の野崎吉明さん



会館ホールで幕開けしました。真宗宗歌のあと嶋田久之総代のあいさつがあつて野畑一雄総代の音頭で乾杯。野島重一総代の司会でいよいよ大会がはじまりました。トップバッターは板屋の野畑一雄さん。自分の出番がくるまで皆さん緊張の様子でしたが、各々堂々と得意な歌を披露しました。浦山新から鬼原夫妻のとび入りもあつて三十名が熱唱。歌唱賞に野崎吉明、ユーモア賞に野崎裕次、加藤友司、嶋田藤一、大浦清一さんらが入賞。音沢、愛本新、板屋、浦山、下村、板屋、中陣、浦山新、石田、三日市の各地からの参加がありました。第二回目は来年三月六日第一日曜にと相談がまとまりました。お気軽にご参加を。

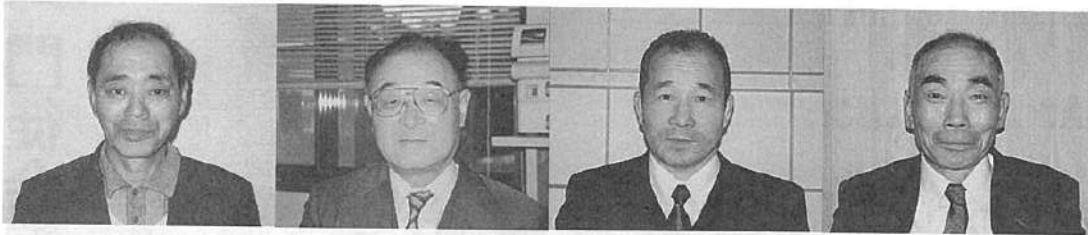
高島有哲住職

住職在職三十年表彰

三月十三日富山本願寺に於いて本山表彰祝賀会が行われました。黒西組では法輪寺住職高島有哲氏と内山常照寺住職樋口和丸氏が在職三十年表彰をうけられました。善巧寺では、三月二

十一日教化推進協議会終了後のお祝いの会で花束を贈呈してよろこびの心を表しました。





栃 沢
開沢 憲一さん
(開沢 弘さん)

音 沢
朝倉 隆俊さん
(高島 彦久さん)

栗 虫
川内 勤治さん
(宮崎 俊夫さん)

浦山新
浦滝 俊雄さん
(浦滝 甚一さん)

**教化推進協議会
開かる**
3/21 出席者 39 名
新総代さん紹介
() は旧総代

平成10年 行事予定

1 月	修正会、かるた会、栗虫報恩講、御正忌報恩講、偲ぶ会お経会 (毎月)
2 月	三田市・生地・荻生・下立・舟見・入善・泊・栃屋・熊野報恩講
3 月	カラオケ大会、浦山報恩講、黒西組仏婦連盟研修会、教化推進協議会・法輪寺住職30年祝、雪ん子劇団春の公演
4 月	10日世界仏教婦人会大会、12日太子会 (温泉花見)、26日花の誕生会
5 月	行信教校専精舎
6 月	6～8 日本山団体参拝、9 日野休み落語会、本山保育大会
7 月	16～19 日 祠堂会 (高務師・那須野師)
8 月	6～9 日雪ん子ジュニアシニア鹿児島公演、13 日青年盆会、15 日こども盆踊り、16 日盆会、29 日雪ん子夏の公演野外劇場
10 月	19,20 日報恩講、19 日午後前々住職三回忌法要、門徒報恩講 (富山・東狐・青木・田家・窪野・経田・柳沢・新浜・上下飯野・高島・板屋)
11 月	空華忌、門徒報恩講 (上野・出・魚津・中新・中陣・栃沢・浦山新・石田)
12 月	門徒報恩講 (中の口・赤田・愛本新・大橋・下村・下立愛本・内山、赤田、音沢報恩講)、30 日もちつき、31 日除夜会

春の教化推進協議会が三月二十一日午後二時より開かれました。本堂でお勤めした後、門徒会館二階ホールに場所をうつし、新総代の紹介につづいて議題にうつりました。一般会計報告及び予算は左ページの通り。今年も昨年と同様の予算が組まれました。又、この一年の行事予定は左の通りですが、カラオケ大会をきつかけとして、更に会館での行事が企画されることが予想されます。

俊之法師
三回忌法要は10/19
前々住職俊之法師の三回忌法要は十月十九日午後、報恩講に併せて勤められます。

住職継職奉告法要
記念事業について
昨年十一月に勤修された特別法要の会計報告は会計担当者が体の都合で辞任されたこともあって、現在のところ、詳細な収支が出ておりません。通帳の残高千

四百九十四万七千七百二十九円という現在額のみ報告となりました。二期工事については、沢田部長から皆さんの意見を求められましたが、予算の範囲内で営繕部会に一任ということに。その他掲示板設置の強い要望が出されました。



ご寄進



真宗々歌や
恩徳讃などの
讃佛歌が大きな
文字で書かれて
あるので

聖典を開かなくてもめがね
がなくても見ていただけま
す。三月一日のお講やカラ
オケ大会でさっそく使用
しました。

雪ん子劇団より讃佛歌歌集



奥さんが亡くなってまる
二年、使うものもないの
でとご寄進下さいました。

アルミの鍋5ヶ

浦山 本波秀夫さんより

昨年十月十七日から半年
にわたってのおとりこし門
徒報恩講、この三月十二日
全戸をまわって終了しまし
た。新住職にとってははじ
めての経験でしたが、大先
輩の高島さんに教えられ、
先輩の照行寺若はんに助け
られて大変楽しく過ごさせ
ていただいたようです。あ
たたく迎えていただいて
ありがとうございました。

新住職
初の門徒報恩講

平成9年善巧寺一般会計決算報告

		(単位:円)
(収入)	(予算)	(決算)
1. 繰越金	552,313	552,313
2. 布施収入	10,000,000	9,890,098
門徒法要	8,350,000	8,400,000
年中行事	1,200,000	1,096,600
賽銭	400,000	393,498
雑収入	50,000	0
3. 会費	4,800,000	4,948,500
4. 雑収入	147,687	266,250
合計	15,500,000	15,657,161
(支出)	(予算)	(決算)
1. 人件費	7,200,000	7,200,000
2. 運営費	4,600,000	4,494,456
法要費	1,250,000	1,252,986
教寺車会	900,000	909,373
接雑費	1,000,000	1,199,708
維持費	900,000	832,458
宗営保	200,000	117,704
雑費	200,000	182,227
3. 維持費	150,000	0
宗営保	2,400,000	2,610,592
雑費	900,000	1,015,240
4. 予備費	1,000,000	1,076,542
合計	500,000	518,810
	1,300,000	1,158,000
	15,500,000	15,462,048
	*差引	+ 195,113

平成10年善巧寺一般会計予算

(収入)	
1. 繰越金	195,113
2. 布施収入	10,050,000
門徒法要	8,400,000
年中行事	1,200,000
賽銭	450,000
雑収入	4,950,000
合計	304,887
	15,500,000
(支出)	
1. 人件費	7,200,000
2. 運営費	5,050,000
法要費	1,750,000
教寺車会	900,000
接雑費	1,000,000
維持費	900,000
宗営保	200,000
雑費	200,000
3. 維持費	100,000
宗営保	2,470,000
雑費	900,000
4. 予備費	1,000,000
合計	520,000
	780,000
	15,500,000

寺
ごよみ

六月

一日 東狐上野お講
六日 本山団体参拝
八日 22回野休み落語会
九日 音沢お講(三)
一六日 偲ぶ会お経会
一七日

寺
ごよみ

五月

一日 音沢お講(一)
一六日 音沢お講(二)
一七日 偲ぶ会お経会
二二日 専精舎夏講
二六日



星空のごときらめきて
春の港
春宵や窓外の景
あきもせて
喜子(前坊守)

第二十二回

花の中の初参式

四月二十六日(日)午前十時

赤ちゃんが生まれたら、まずお寺で初参式をうけましょう。人として生まれたご縁を感謝し、いのちの尊さを心に刻みましょう。

お申込み 二十日まで
受式懇志 三千円



第二十一回野休み落語会
六月九日(火)午後七時半



出演 永 六輔

柳家小三治

入船亭扇橋

入船亭扇治

ほか

会費 二千五百円

お早目にお越し下さい。

本山ご助成会

四月一日 十時、一時半

黒西組(黒部・宇奈月のお寺五ヶ寺)のお寺を順番に宿寺としてお勤めしている本山ご助成会、今年は善巧寺が当番です。お講にあわせて勤められますが、午前、午後の二座ありますのでご注意ください。ご講師は本願寺布教士、八尾町勝福寺住職藤島秀夫先生です。

太子会とお花見

四月十二日 九時半

太子会法要のあと温泉付お花見へ。

参加者募集中。



あなたも善巧寺仏教婦人会

官公庁の汚職事件、公官の自殺、中学生のナイフ事件などなど、一体世の中どうなっちゃったのと感じる人も多いのではないでしょう。勿論こういったことは昔もあったのでしようが情報過多の昨今、次々と目に耳にとびこんできます。種々のコメントの中で、家庭でのしつけ、宗教的教育

今年中に善巧寺仏教婦人会結成にこぎつけましょう。ご協力ください。

合 掌

花の便りが聞かれる頃になりました。つらいニュースばかりでなくホットなニュースを報道してほしいものです。

今こそ心の教育、宗教的しつけが求められています。二十年近く子供達とつき合い続けてよかったと思うことがいくつもありません。

ある日の夕方、本堂の阿弥陀さまの前で泣きながら合掌しているのは二十才を迎えるシニアの一人。就職のことで思い悩んだ末、仏様に聞きにきたのです。占いやまじないでなく、仏様の前にきてくれたのは雪ん子でのお育てのおかげです。

おばあちゃんが亡くなつて何もわからない両親にお経を教えお作法を教えたのは雪ん子の六年生でした。

